卒業論文

大学生の職業意識と「とりあえず志向」

平成 24 年度入学
九州大学文学部人文学科人間科学コース
社会学・地域福祉社会学専門分野

平成 28 年 1 月 8 日提出

要約

現代では、「若者」という存在がさまざまな言説で語られている。若者がどのような存在なのかを、特に、社会構造がどのように変化してきたのかに注目して整理しながら、現代の若者がどのような存在で、何に生きづらさを感じているのかを明らかにし、適切な支援を模索することが本研究の目的である。

第 1 章では、「リスク社会」とまで言われるような現代社会に至るまでに、日本社会が経験した安定と構造転換の歴史を振り返り、現代社会の不安定さを明確にする。

第 2 章では、現代の若者の意識の中でも特に職業観に着目し、「再生産」や「自己選別」、「個人化」といった概念にも触れながら検討する。そして「内向き志向」や「安定志向」などと評されることもある現代の若者の意識の背景に迫りながら、現代の若者を特徴付ける「とりあえず志向」という概念を定義する。

第 3 章では、実際に「若者」の一端としての大学生を対象として質問紙による調査と分析を行う。「とりあえず志向」の背景にはどのような要素が影響しているのか、大学生の職業意識がどのようなものなのかを分析によって明らかにしていく。先行研究の整理から得られた知見や調査によって読み取れた傾向などから、必要な支援や今後の展望について考察を深める。

若者が、自分自身の職業という問題についても「とりあえず」という姿勢になってしまうような社会構造と抱えている困難について理解を深めることのできる研究としたい。

目 次

はじめに 1

第 1 章　社会の不安定化 2

1.1　戦後安定社会 3

1.2　失われた 20 年 6

1.3　ロスジェネ――双子の問題 12

第 2 章　若者の職業選択とリスク回避 15

2.1　若者の職業意識と階層 15

2.2　やりたいこと志向と能力主義 17

2.3　リスクの個人化ととりあえず志向へ 25

第 3 章　調査 27

3.1　調査の目的 27

3.2　調査の方法 27

3.3　調査結果の分析 29

3.4　考察 54

［文献］ 55

［付録］ 57

おわりに 62